



色絵吹重  
薔薇文八角皿

- 企画  
財ボ—ラ伝統文化振興財団
- 製作  
株桜映画社
- 監修  
工芸評論家  
南 邦男
- 規格  
カラー・36分
- 販売価格  
16ミリ/215,000円  
VHS/ 25,000円  
(一般価格)  
VHS/ 50,000円  
(FL価格)



みる人たちの、心が洗われるような  
作品をつくりたい。……十三代今右衛門



色絵緑地草花  
更紗文瓢瓶

色絵吹墨草花  
更紗文瓢瓶

造、「伝統工芸のあり方」といった  
大きな課題に 대응しようとしている  
ように見える。

# 十三代今右衛門 薄墨の美



色絵薄墨草花更紗文花瓶

●映画 『十三代今右衛門 薄墨の美』  
に寄せて

工芸評論家 南邦男

佐賀県有田の赤絵町にある今泉今右衛門家は、藩制時代から鍋島藩窯が焼造する精緻な色絵磁器、いわゆる「色鍋島」の御用赤絵屋を代々つとめてきた。そして明治以降も今泉家は、色鍋島の窯焼きから上絵付まで、その分業的工程を一貫して経営する窯元として、その伝統的な様式・技法を継承して来た。

昭和五十年に十二代今右衛門が死去し、現在の今右衛門さんが十三代を襲名した。家業を継いだ十三代今右衛門が先ず思ったことは、「先代と違う自分らしい色鍋島を作りたい」ということだった。

記録映画『十三代今右衛門 薄墨の美』は「色絵磁器」の重要無形文化財保持者・十三代今泉今右衛門の陶芸家としての人間形成と作品の制作工程を軸に展開される。

この映画のタイトルとなったうすずみ色の色調が、伝統的な色鍋島に使われたことはこれまでになかった。「薄墨」の技法は、初期伊万里染付の「吹墨」を応用したものであるが、十三代今右衛門の更紗文様の色絵磁器に表現されると、そこに新しく深みのある艶なる美の世界が広がる。

●配給



## 十三代今右衛門さんのこと

映画監督 村山正実

肥前(佐賀)の有田は日本の色絵磁器の発祥の地で、十三代今泉今右衛門さんの窯は有田の赤絵町にある。

有田町は一本の細長い街道沿いにあり、両側にはいまもたくさんの陶磁器店(窯元)が並んでいる。今泉家の斜め前には明治時代に輸出向けの陶磁器を製造した香蘭社や深川製陶の古い建物もある。この表の通りから一步狭い曲りくねった路地に入ると、両側にはトンバイ堀と呼ばれる登り窯の赤く焼けたレンガの堀が所々にあり、また近くには、いまは夏草に覆われているが、天狗谷窯、稗古場窯などの古窯の跡も残っている。桃山時代から江戸時代へ移行した十七世紀のはじめから現代に至る四百年近い歳月、有田は焼きものの町としての長い歴史と伝統の中に生きてきた。十三代今泉今右衛門さんの色絵磁器の仕事もその有田の歴史と伝統の中に生まれてきた。

この映画は、長い伝統をもつ色絵磁器「色鍋島」の窯元に生まれて、いずれは家業を継ぐ運命を背負った十三代今泉今右衛門の、自分らしい色絵磁器を目指す創作の努力を描いている。父の十二代も、祖父の十一代も、曾祖父の十代も、時代の厳しい変化の中で、それぞれに伝統の革新を企てる。十三代の今右衛門も色鍋島の伝統技術の継承と、作家としての創作との狭間で大いに悩む。鍋島藩主が、将軍家や各藩主に贈答用に造らせた色鍋島は、あくまでも美しく品がよい。十三代の今右衛門は、もっとラフで拙(つまぎ)のような美を加えたいと苦心する、その過程を氏の生い立ち、青春とともに描いた。

この映画はいわば、今右衛門さんの内面的な「自分探しの旅」でもあり、その作陶は、伝統の否定ではなく伝統の中に新しさを再発見していく軌跡でもある。もちろん映画では同時に、氏が開発した「吹墨」、「薄墨」、「吹重」という新しい色絵磁器の創作過程が具体的によく分かるようにも心掛けた。

いつも茶系の地味な上着を身につけ、気さくで、堅苦しいことが嫌いだという今右衛門さんのお人柄。その作品には、若い頃に出会った仏像の「もの静かな」美しさと、初期伊万里の素朴な美しさ、ラフな更紗文への思いや憧れが強く反映されており、いまでも青春時代の思いが創作活動の大きな支えになっている。

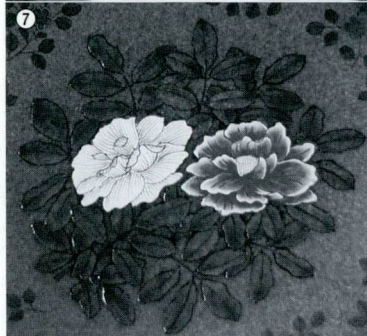
その若々しく瑞々しいナイーブな感性が今右衛門さんの作品の魅力だと思う。

### 【製作スタッフ】

撮影=村山和雄  
製作=村山和雄  
脚本・演出=村山正実

撮影=村山和雄  
山屋恵司  
照明=水村富雄

編集=吉田栄子  
選曲=山崎 宏  
語り=白坂道子



### 「色絵吹重薔薇文八角皿」をつくる

1. 木炭による下絵 素焼きの素地に直接あたりをとる。
2. 下絵付け(線書/ダミ) 下絵が出来ると、型紙で写しとり、呉須と薄墨の絵の具で染付をする。
3. 吹墨(表写真参照) 模様の一部をのりて伏せ、皿を回転させながら呉須を吹き付ける。のり伏せした部分は、後で剝がされる。
4. 薄墨 吹墨が終ると、今度は薄墨の絵の具を皿全体に吹き重ねる。
5. 下絵素地の完成 本焼きの後、焼き上がりを見る。

6. 上絵付け(赤絵) 最後に上絵付けをし、赤絵窯で焼成する。
7. 完成 吹墨と薄墨とが、一つの皿に重なりあった作品が出来る。

## 陶芸関係記録映画

### 色鍋島

カラー・29分・16ミリ 195,000円  
VHS 50,000円



十二代今右衛門を中心に、きたえぬいた技を持つ多くの職人たちの一貫した分業作業工程のみごとな流れを記録した名作。芸術祭大賞受賞作。

### 呉須三味——近藤悠三の世界——

カラー・32分・16ミリ 190,000円  
VHS 50,000円



ひたすら染付磁器にこだわり、呉須の表現に新しい工夫を加え、作陶を追求した近藤悠三の軌跡を紹介。

### 藤本能道の色絵磁器——釉描加彩——

カラー・33分・16ミリ 210,000円  
VHS 50,000円



釉下彩を加えた色絵の画期的な技法を創案し、色絵磁器に広がりをもたらし藤本能道の芸術を追う。

●製作

株式会社 桜映画社

〒151 東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル6階  
TEL 03-3320-6311 FAX 03-3320-7666